

東北・福島+埼玉=福の玉 が生まれ、ゆっくりふくらんでいきますように...

7月
& 8月

福玉便り

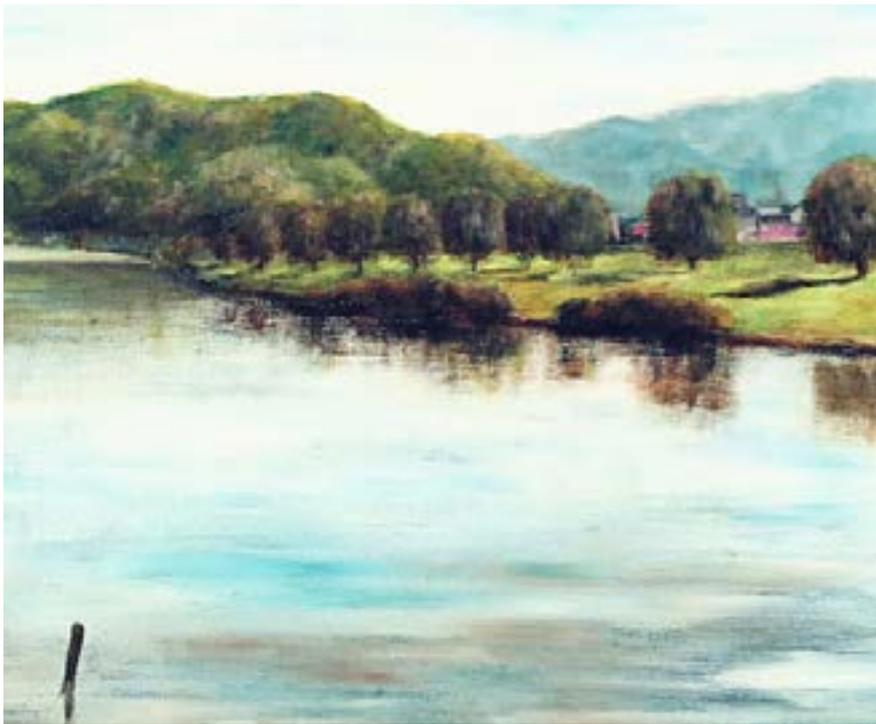
ふ く た ま だ よ り

通巻 115 号

発行：『福玉便り』編集委員会 NPO 法人埼玉広域避難者支援センター・(一社) 埼玉県労働者福祉協議会

協力：生活協同組合コープみらい埼玉県本部

連絡先：NPO 法人埼玉広域避難者支援センター 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 6-4-2 1ときわ会館 1F TEL0120-60-7722



この絵は、福島市の中央部を流れる阿武隈川を、中心市街地から川ごしに渡利地区を描いたものです。中心の山の向こうには、飯館村、そして福島原発があります。この絵を描いたのは、いつか忘れましたが、震災及び原発事故の前でした。まさか運命の変えることになるなど思いもせず、その時は新緑の美しい福島山並み、そしてそれを映し出す川の水面に感動し絵を描きました。みなさんをご存知だと思いますが、この阿武隈川も放射能に汚染され、川岸の放射線量は異常な数値でした。そんな切ない川ですが、何故かその雄大さに安らぎを感じました。(オオハシワタル)



訂正：前号にてお伝えしたオオハシワタルさんの Instagram が、乗っ取られてしまい、閉鎖されてしまいました。現在は、新しいアカウントに変更しています。ぜひ、Instagram のアカウントをお持ちの方は、フォローし直してくださいね。(編集部・吉田)



眠れない日が続いているとき 気にかかることがあるとき 困っていることがあるとき
理由ははっきりしないけれど、誰かに話を聞いてもらいたいとき
いつでも気軽にお電話ください。



福玉相談センター 電話：0120-60-7722 (フリーダイヤル)

火曜日・水曜日・木曜日(9:30~16:30) 電話で相談しづらい方はメールでもどうぞ。

メール：fukushima_soudan@yahoo.co.jp

あの時の自分の判断に後悔はありません

——五十嵐真弓さん

郡山市で子どもや女性の洋服と雑貨のセレクトショップを経営していました。人通りの多い場所であり、自分の気にいったブランド品を集めてやりがいを感じていました。子育てママ向けのフリーペーパーの創刊号で紹介されたこともあって、足を運んでくれるママたちも多くいて、小さなお店ながら賑わっていました。



2011年3月11日の地震はもう恐ろしくて「どうしよう、どうしよう」と机の下にもぐったりしていたら、外にいた人から「店から出た方が良い」と声をかけられて慌てて外に出ました。その後、水が止まったので磐梯熱海にお風呂に入り、いったりしていたのですが、テレビで第一原発一号機が水素爆発する映像を見て、「これはまずい、危険だ、避難しなくちゃ!」とすぐに思いました。どこに避難しようかと考えた時、ちょうどその直前に東京で以前働いていたブランドの同期と会ったばかりで、彼女のお宅に泊めてもらっていたことを思い出しました。すぐに連絡を取り、子ども2人

を連れて1週間ほどお世話になりました。親には反対されませんでした。その後、郡山市で仲良くなっていた友人も子どもを連れて東京に避難してきたので、一緒に静岡のキャンプ場にも行きました。そこには津波で家を失ったり、家族を亡くした避難者の方々もおられました。自分たちのような原発避難とはまた異なった震災のすさまじさを目の当たりにしました。

子どもの通学のこともあり、とりあえず転校し、東久留米市に住むことを決心しました。4年生になる息子は「友だちは郡山にいるのに、なぜおれだけここに来たのだ!」と泣きながら訴えました。その姿を見て、もう切なくて、切なくて。今思い出しても涙が出てしまいます。しかし、放射線量を気にせずに過ごせる環境のありがたさを見ると、少しでも遠くに移動するという自分の判断は揺るぎませんでした。お店の方は、これから町には子どももいなくなるのではと思いましたが、スタッフがこのまま働かせてほしいと言ったので任せることにしました。

当時、避難してきた子どもへのいじめ等の報道がありましたが、私は保護者会で保証金はもらっていない」と自分から話すようにしており、そのためか、幸い学校でいじめられることはありませんでした。逆に、東久留米市や近隣の方々から様々な支援を受けました。子どもたちは保養で遠方にも行けて、貴重な経験もさせてもらえました。ただ、最初の頃は高速道路の料金も出なかつたので夫が郡山から通うのが大変でしたが、それでも子どもに会いに毎週自費で来てました。

私は、しばらくの間仕事をせずに家にいました。静岡と一緒に行った友人と行動することが多かったですね。彼女は郡山でもママサークルを運営する活動家だったので、市内でも避難者の情報交換の場を立ち上げました。そこで出会った方々は、夫婦のどちらかが関東出身というパターンが多くて、どちらとも福島出身だった。私たち2人は「よく避難してきたね」と言われていました。当時はミクシイの時代で、避難者の情報を見つけてはあちらこちらに行つて、会っていました。全国に母子避難の知り合いができました。

そのうちに以前からの仕事上の知り合いからさいたま市浦和区にある店舗を手伝ってほしいと声をかけら

れ、そこで働くようになり、最終的にその店舗を買い取りました。こうして埼玉との縁が生まれました。郡山と浦和の2店舗を持つようになり、行ったり来たりして懸命に働きました。

子どもたちは郡山市よりも東京での生活が長くなり、この春、上の息子が就職で東海地方に移りました。こうして子育ても終りに近づいているのだと思うと、淋しいです。この息子は「なんで自分だけ」と泣いた子です。避難してきたことが良かったのかどうか、影響は先にならないとわからないことかもしれないけれど、あの時の自分の決心に対して後悔は全くしていません。

コロナ禍で購買欲に変化が生じましたし、服の価格も上昇しているため、店舗の経営はなかなか厳しい状況です。これからは洋服だけではなく、雑貨、食品など手に取りやすい物を充実させていきたいと思っています。

す。浦和店もふらっと寄ってくださったお客さんが多いので、この場所でホッとできるスポットとしてあり続けたいです。

3・11の時、原発による広域避難という前例のない事態が発生し、対応マニュアルや対策もない中で様々な情報が錯綜して、何が正しいのか、何を頼りにしたらよいのか、全くわからない状況でした。その中で私たちは必要な情報を探し出すことに必死で、仲間同士で情報を共有しあったものです。今思うと、母子避難をした人たちは行動的な人が多いかったですね。自分で選択して出てきたのだから、自分で動かざるを得なかったとも言えます。ただ、こうした経験はもう繰り返してほしくない。教訓として引き継いでもらいたいのです。

私はいわゆる避難所での生活を経験していませんが、他の方の話を聞くと本当に大変だったようです。見えてきた課題を改善してほしいところですが、能登半島地震の様子を見ても、相変わらず雑魚寝の生活も多かったようで、残念ながらもあまり変わっていないようです。支援物資が届いていないと配布しないこともあると関わった方から聞きました。困った状況にいる被災者のことを考えて、工夫しどうにかならないのかな、と思います。今回、お店の子ども服や下着などをまとめて支援物資として石川県に送りました。幼稚園などで配布していただけただけで、お礼の手紙も届き、うれしかったです。うちの商品はカラフルでかわいいものが多いので、身に付けて少しでも元気を出してもらいたいと思っています。

振り返れば、避難してしばらくの間、自分も精神的に不安定な状態にあったのだと気づきました。私の場合は、仕事を始めたことが助けとなったのかもしれませんが、の間、必死で生きてきたのだな、と思いました。

避難直後は、本当にあちらこちらに出かけて、同じように、に避難してきた方々とたくさん出会いました。

(編集部 薄井)

4月から横須賀の後任として埼玉県を担当させていただくことになりました平澤康則です。



出身は、東京都府中市です。前職では、損害保険会社に35年間勤務し全国各地を赴任しました。秋田県に勤務しているときに東日本大震災に遭いました。被災家屋の査定のため塩釜市に赴き、変わり果てた被災地を目にし、被災者の辛い思いに少しでもお役に立ちたいと思いました。今の仕事の原点にもなっています。

避難された方々が安心して暮らせるよう、相談や情報提供など親身に対応させていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

福島県避難者支援課 平澤康則

各地の 交流会など

新型コロナウイルスの感染拡大により、交流会の流動的な状況が続いておりました。各交流会の感染対策については連絡先にお問い合わせください。なお、各交流会に参加される方は、引き続き体温測定の上でご参加いただき、参加中は消毒や換気にご協力ください。

| | | | |
|---|-------|------------------|---|
| ① | 加須市 | 双葉町民によるボランティアカフェ | 090-5356-8778 (鶴沼さん) |
| ⑤ | 加須市 | すくすくのおそびひろば | 090-2411-8598 (戸恒さん) |
| ⑥ | 加須市 | オバトン | 090-6526-8560 (藤井さん) |
| ⑧ | 上尾市 | 東日本大震災に咲く会ひまわり | 080-3091-6215 (橘さん) |
| ⑩ | 熊谷市 | くまがや結の会 | 090-7661-9236 (林崎さん) |
| ⑱ | 川口市 | ひまわりの会 | 080-5431-0123 (島田さん) |
| ⑲ | さいたま市 | さいがい・つながりカフェ | 080-5532-7380 tunagari.saitama@gmail.com |
| ⑳ | ふじみ野市 | おあがんなんしょ交流会 | 090-5345-8408 (松館さん) |
| ㉘ | 川越市 | ここカフェ@川越 | 070-5080-4494 (鈴木さん) |
| ㉚ | さいたま市 | 玉兔の会 | 090-6128-1948 (小林さん) https://gyokutonokai.wixsite.com/2018 |

⑥オバトン

キャッスルきさいにて食事交流会を10時～14時に行います。塗り絵は毎回、ハーモニカ合唱は木曜日です。適宜、水分補給や休養を取りながら、夏バテしないようにお過ごし下さい。8月は休館日のため28日のみです。7/8(火)、7/24(木)、8/28(木)
10:00～14:00 キャッスルきさい
090-6526-8560 (藤井さん)

⑲さいがい・つながりカフェ

7/10(木)、7/24(木)、8/21(木)
11:00～15:00 WithYou さいたま和室
080-5532-7380、tunagari.saitama@gmail.com

㉘ここカフェ@川越

皆様のご予定を調整しながら毎月交流会を行っています。場所はJUNホール、10時～です。pororon311@gmail.com、070-5080-4494 (鈴木さん)

東京電力 福島第一原子力発電所事故 原子力損害賠償・廃炉等支援機構

原子力損害賠償に関する個別相談会・請求書作成支援

- 開催日 令和7年7月27日(日) 10:00～16:00
〔休憩 12:00～13:00〕

- 会場 加須市騎西文化・学習センター
『キャッスルきさい』 2階視聴覚室
住所：埼玉県加須市根古屋 633-10
★東武伊勢崎線『加須駅』より車にて約10分
※専用無料駐車場がございます。

● 弁護士による個別相談 (予約制)

- 原発賠償に詳しい弁護士が原子力損害賠償全般のご相談に対応いたします。
- 賠償請求で困っている方は、ぜひご相談ください。
- 原則として1組1時間までご相談いただけます。

● 行政書士による請求書作成支援 (予約制)

- 第五次追補等に関わる追加賠償等の請求書の作成支援。
- 増額事由等で書き方が分からない方は、ぜひご利用ください。
- 請求書の記入はご自身でお願いします。

● 専門家へご相談ください。

- ・請求漏れがないか相談したい
- ・住居確保にかかる費用の賠償請求について相談したい
- ・ADRの申立てについて相談したい など

● 連絡先

- 事前予約はこちらから

予約ダイヤル
0120-330-540
【受付時間】9:30～17:00 月～金
(祝休日を除く)

- ご来場が難しい場合は、電話相談をぜひご利用ください!

電話相談ダイヤル
0120-013-814

【対応時間】10:00

～13:00、14:00～17:00 月～金(祝休日を除く)

- ・行政書士による電話での情報提供
- ・弁護士による電話相談：【事前予約制】祝日を除く毎週火・木 10:00～13:00
- ・オンラインでのご相談も可能

無料 東京電力 福島第一原子力発電所事故の
**原子力損害賠償に関する
個別相談会・請求書作成支援**

日程
7月27日(日)

会場 埼玉県 加須市
『キャッスルきさい』※詳細は裏面

予約制 弁護士による個別相談
原発賠償に詳しい弁護士が原子力損害賠償全般のご相談に対応いたします。賠償請求で困っている方は、ぜひご相談ください!

時間 10:00～16:00
(休憩12:00～13:00)
※原則として1組1時間までご相談いただけます。

予約制 行政書士による
請求書作成支援
第五次追補に関わる追加賠償等の請求書の作成支援。増額事由等で書き方が分からない方は、ぜひご利用ください。請求書の記入はご自身でお願いします。

時間 10:00～16:00
(休憩12:00～13:00)

事前予約はこちらから **0120-330-540**
受付時間 9:30～17:00 月～金(祝休日を除く)
原子力損害賠償・廃炉等支援機構
Nuclear Damage Compensation and Decommissioning Facilitation Corporation